



本格的な秋の訪れに外あそびを楽しんでいる子どもたち。昼夜の気温差が大きい季節でもあるので、健康面には十分気を付けていきたいと思います。これからの季節、お散歩などでどんぐりや落ち葉に触れることも増えてきます。色や音、手触りや匂いなどでも秋を感じていきたいですね。

★幼児期前半の自我の発達

2歳を過ぎてくると、目の前のことを「する」だけでなく、思い浮かんだイメージをもとに行動するのですが、イメージの世界はまだまだ不安定です。エピソードを思い浮かべて遊んでいても、次のエピソードを思い浮かべるのにはてがかりが必要になります。そのため、大人や仲間が、エピソードに共感してくれていると楽しいのですが、手がかりがもてないと不安になってきます。指をしゃぶったり、ポーっとする姿も出てしまいます。だから仲間がいて、ともに楽しく遊んでいる場面の方がイメージを思い起こしやすく、仲間同士で動きのマネっかが伝染していきます。ビニールブロックに一列に並んで乗り、「大型バスに乗ってます」と遠足に行くシーンが展開されるのも、お互いのイメージが伝染し溶け込むからです。

この時期はオウム返しもよく見られ、「アキ、ごめんな」とおもちゃを投げた仲間のことばをそのまま取り入れて、ブロックを投げる時に「アキ、ごめんな」と言うなどの姿が見られます。オウム返しは自閉症スペクトラム児だけのものではありません。人形相手に「どうぞ」「ありがとう」と一人二役で遊ぶのも、他者がしていたことを思い浮かべ行動を生み出していくためです。仲間に対して「カシて」「イイよ」と譲る姿も出てきて、泣いている仲間をなぐさめるやさしさも見え始めます。仲間と一体感を感じるようになってきているのです。このように、自分から見える世界に素直に溶け込む「相互模倣」がさかんな時期です。保育者が楽しく動き相互模倣を作り出すと、楽しく参加する子どもが増え、雰囲気盛り上がりしていきます。イメージを思い起こしやすい「エビカニたいそう」のハサミのような手がかりグッズがあると、子どもはより盛り上がります。

一方、大人と子どもが1対1で対応する際には、1歳児とは違ったややこしさも出てきます。自分のイメージを行動に移したい2歳児は、大人が勝手に自分のイメージ

に溶け込んでくることを拒否するようになります。

イメージがまだ不安定であるが故に、大人に侵食され溶け込まれそうだと感じると、自分のイメージを強く打ち出さざるを得なくなるのです。大人から独立した自分を作るほどはイメージがしっかりとしていないけれど、「自分を確立したい」ところの奥で願っているから、自分の立ち位置をどうしても保持したいと踏ん張るのです。いわば「反抗のための反抗」です。

『こどものかわいさに出あう ～乳幼児期の発達基礎講座～』

近藤直子著 クリエイツかもがわ 出版

次回のめだか教室は…

めだか教室①… 12月 8日 (火)

→ せいさく をします

めだか教室②… 12月22日 (火)

→ せいさく をします

◎持って来るもの：水筒・必要に応じて着替え・帽子

※保護者の方も動きやすい服装でお願いします

※個別相談も行っています。職員とゆっくりと話がしたい。子どもの発達状況を知りたいなどございましたら、担当職員の方にお知らせください。

参加される皆様へ』 ～ご協力をお願いします～

- ・お休みをされる場合は、学園までご連絡ください
- ・参加費は無料です。(おたよりがホームページに掲載され、通信費が必要ないため) 製作やクッキングの活動の時には材料費として100円いただきます。その都度連絡します
- ・水分補給のため、お茶を用意して下さい(ジュース類は控えてください)
- ・きょうだい児の参加はご遠慮ください。預け先がない場合は事前に職員までご相談ください
- ・トラブルによるケガ防止のため、参加前に爪を必ず切ってきてください